

## 学術共同ネットワーク(Scholarly Collaboration Networks)における 論文共有に関する自主的原則 (2015年6月8日改訂)

学術研究は、本質的に共同作業の性格をもちます。学術セクターまたは非営利セクターの研究者および科学者から構成される集団が経験、専門知識、施設を共有するのは、人類の知識と理解を進歩させるためです。それがもっとも顕著に表れているのは学術論文の共有においてであり、大半の学術論文には複数の著者が関与し、しばしば異なる機関や国から参加しています。そのため、論文や補助資料の共有は、研究を進歩させるうえで重要な要素となります。

研究グループが以前より学際的で国際的になるにつれて、このような共有も増えましたが、それはインターネット上の各種ツールや技術の増大によって可能となったものです。学術共同ネットワークは、論文やデータを発見し、共有する機会を研究者にもたしますが、その共有の経験は非効率で、一貫性を欠き、法的な不可実性のために阻害されることがあり、学術研究者、学術機関、学術共同ネットワーク、出版社を悩ませます。

我々は、購読または契約によって利用しているコンテンツの共有を学術研究者にとってシンプルでシームレスなものにすることによって、共同作業を推進しながらも、論文に関するアクセスおよび利用の権利と整合性のあるものにすることを望んでいます。我々は、出版社と学術協同ネットワークが協力することによって、すべての関係者の経験を最大化するいくつかの中心的な原則を用いて、研究者、研究機関、そして社会全体が恩恵を受ける共有を実現できると考えています。

オープンアクセス出版は、共有を可能にするひとつの手段を提供しますが、購読または契約によって利用しているコンテンツの共有という問題には対応していません。この自主的原則は、その問題に対応し、オープンアクセス出版またはセルフアーカイブを補完することを目的していますが、それを代替するものではありません。また、この原則は、営利組織による共有や営利組織間の共有に対応するものでもありません。

本原則の署名者は以下のように考えます。

- 出版社は、著者の学術論文の普及と発見を促進することに対する強い責任を持っています。

- 論文の共有は、研究共同グループの内部、すなわち特定の研究共同事業に参加するように招待された学者または研究者のグループの内部で許可されるべきです。このようなグループは、以下の条件を満たすものです。
  - 当該分野の研究グループとして一般的なサイズである
  - グループの内部で、グループの目的のためにのみ論文を共有する
  - グループ内における購読者と非購読者の間で論文を共有することを許可する
  - 営利企業の研究者を含む（ただし、出版社の方針または適切な許諾に従うものとする）
  - グループの目的のために参加する、より幅広い一般の参加者を含む
- 出版社と図書館は、読者の習慣をよりよく理解し、両者が提供するサービスの価値を定量化することを目的として、COUNTER などの規格を用いて論文共有の量と形態を把握する能力をもつべきです。
- 共有を促進するための取組は以下のものであるべきです。
  - 研究者が必要とするツールやプラットフォームをサポートするための規格に基づいている
  - 本原則を支持する参加者すべてが関与できる
  - アクセスおよび利用の権利、そしてデータの報告を研究ワークフローに統合する
  - 利用および研究活動に関するデータが、個人のプライバシーとセキュリティに関する法律その他の要件と整合性のある方法で管理されることを保証する
- 学術共同ネットワークでは、論文のメタデータとオープンアクセス論文を公衆に対して公開することを奨励すべきです。
- 研究共同グループによる論文の共有および論文の公衆への公開に関する出版社の方針は、明確で容易に見つけられるべきであり、我々は出版社に対して、この目標に向けて行動することを要求します。